

令和 6 年度第 5 回おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会 会議録	
日時	令和 6 年 12 月 26 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分
場所	阪南市役所 3 階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	委員 久(委員長・近畿大学)、下村(副委員長・大阪公立大学)、岡野（大阪観光局）、奥野(商工会)、小森(南海電鉄)、小嶺（関西エアポート）、佐藤(市民)、富岡(自治会連合)、根無(市民)、武石（ジェイコムウエスト）、澤田(連合大阪)、松端（武庫川女子大学） 【オンライン】矢田(大阪府)、和田（大阪府） 【欠席】玉井（池田泉州銀行） 成長戦略室：藤原、中出、太田、人見 支援事業者（有限責任監査法人トーマツ）：松本、辻村、増田、光定
傍聴	2 名
議事項目	① 開会 ② 議事 （１）総合戦略等について （２）意見交換 （３）その他 ③ 閉会
会議資料	① 次第 ② 名簿 ③ 配席表 ④ 資料 1 人口推計について ⑤ 資料 2 阪南市デジタル田園都市構想総合戦略（素案） ⑥ 当日資料 1 阪南市デジタル田園都市構想総合戦略の概要（素案） ⑦ 当日資料 2 総合戦略の K G I について（案） ⑧ 参考資料 1 アンケート結果について ⑨ 第 4 回創生委員会の会議録

議事内容	
1. 開会	
事務局	定刻になりましたので、おもいやりあふれるまち阪南 まち・ひと・しごと創生委員会を始めさせていただきます。 皆様方におかれましては、ご多忙のところ、本委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。 本日の出席委員は、委員総数 15 名に対し、14 名となっておりますので、おもいやりあふれるまち阪南まち・ひと・しごと創生委員会条例第 6 条第 2 項の規定により、本日の会議が成立しておりますことをご報告いたします。 なお、池田泉州銀行の玉井委員は欠席の旨、大阪府企画室推進課の矢田委員、大阪府スマートシティ戦略部戦略推進室地域戦略推進課の和田委員は WEB 参加の旨をあらかじめご連絡を頂いておりますことを併せてご報告申し上げます。 本日の傍聴者は、2 名です。 本日の進行につきましては、ご配付させていただいております、会議次第にもとづき、進めさせていただきます。
2. 議事	
事務局	次に、資料のご確認をお願いいたします。 本日の配布資料は、 ① 次第 ② 名簿 ③ 配席表 ④ 資料 1 人口推計について ⑤ 資料 2 阪南市デジタル田園都市構想総合戦略（素案） ⑥ 当日資料 1 阪南市デジタル田園都市構想総合戦略の概要（素案） ⑦ 当日資料 2 総合戦略の K G I について（案） ⑧ 参考資料 1 アンケート結果について ⑨ 第 4 回創生委員会の会議録 です。皆様、お手元にございますでしょうか。 それでは、以後の進行につきましては、委員長をお願いしたいと存じます。 久委員長、よろしくお願いいたします。

(1) 総合戦略等について

委員長	それでは、議事次第に基づき、進めさせていただきます。 次第の2. 議事案件、「(1) 総合戦略等について」の説明をお願いします。
事務局	資料1の人口推計について、説明させていただきます。 2ページでは、人口ビジョンの目標値と現状の達成状況を示しております。左の折れ線グラフについて、緑色と青色の折れ線は平成27年度に策定した現行の人口ビジョン、黒色の折れ線は国立社会保障・人口問題研究所の人口推計を示しております。目標値は、国の合計特殊出生率の目標が「合計特殊出生率を令和22(2040)年までに2.07まで上昇させる」であるため、阪南市としても高めの数値目標となっています。現状は、現行の人口ビジョンが国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に達していない状況です。 3ページでは、総合計画における将来人口の推計を示しております。将来人口の推計は、近隣自治体で最も数値の高かった合計特殊出生率を参照して仮定を設定しています。新型コロナウイルスの流行の影響もあり、現状では総合計画の推計値に達していない状況です。 4ページでは、人口ビジョンにおける目標値の設定について、仮定パターンを示しております。事務局では、転入出の仮定をパターン②「子育て世代においてのみ社会移動数が段階的に改善し、2035年に全世代の転入出者数の均衡を達成し、以降同程度の社会移動数が継続」、合計特殊出生率の仮定をパターン④「子どもの人数の理想を(阪南市の希望出生率)段階的に叶え維持(2025年に全国平均1.33、2030年に総計策定時の目標1.53、2035年に希望出生率1.87を達成し以降維持)」に設定しています。1.87という数値は、13ページに記載のとおり、阪南市で実施した市民アンケートの結果を用いています。 10ページでは、人口ビジョンにおける目標値の設定について、転入出の仮定をパターン①、合計特殊出生率の仮定をパターン④とした場合の人口推計を示しております。目標値を達成していくことで、概ね2024年に総合計画策定時の推計人口を達成できると考えています。 人口推計についての説明は以上です。

事務局	続いて、資料2の阪南市デジタル田園都市構想総合戦略（素案）について、説明させていただきます。 まずは、当日資料1の阪南市デジタル田園都市構想総合戦略の概要（素案）をご覧ください。 裏面では、重点施策による取組の全体像をまとめております。総合戦略では、私のONE ACTIONが市民の満足度につながり、地域活性化や魅力的なまちの創造につながると考えています。キーパーソンを中心に、まちづくりの仕掛けづくりを行うため、ONE ACTIONプラットフォームを真ん中に据える構図とします。 続いて、資料2の阪南市デジタル田園都市構想総合戦略（素案）をご覧ください。 4ページでは、第2期阪南市総合戦略の振り返りについてまとめております。振り返りの結果、市が主導する取組では、市民の満足度を十分に向上できなかったことが分かりました。そのため、市民の活動への参加意欲を支援するような施策が必要だと判断しました。 6～7ページでは、国及び大阪府の総合地方創生に関する方向性と、本総合戦略の位置付け等をまとめております。 11～12ページは、前回、前々回の創生委員会にてお示しした阪南市の人口動態とまちの現況をまとめております。 14ページでは、人口動態に基づく仮説から推察されることと、本総合戦略を実行することにより改善したいことをまとめております。 15～17ページでは、人口推計についての説明と同様の内容をまとめております。 以降は総合戦略の内容についてまとめております。 20ページでは、人口動態と基礎調査から推察される本市での生活と解決すべき主な課題についてまとめております。 22ページでは、20ページでまとめた課題と、国が地方創生に求める要素を紐づけ、本総合戦略に求められることをまとめております。
-----	--

	23 ページでは、将来のビジョンと本総合戦略と取り組むべき要素を相関図で示しております。 24 ページでは、本総合戦略の取組におけるキーパーソン像を示しております。 26 ページでは、本総合戦略における仕掛けと基本目標および基本的な方向性をまとめております。 28～41 ページでは、本総合戦略の KGI と基本的な方向性、各基本目標の取組と KGI を示しております。KGI については、当日資料 2 の総合戦略の KGI (案) と数値が異なる箇所がありますが、当日資料 2 の数値を正として設定しますので、ご了承くださいますようお願いいたします。 42～46 ページでは、重点施策をまとめております。「はんなん ONE ACITON プラットフォーム (仮)」、『みんなの「自分らしさ」で創る遊びの場・憩いの場・集いの場プロジェクト (仮)』、「空き (あき) で商い (あきない) プロジェクト (仮)」、「子育て×企業コラボで地域のしごとづくりプロジェクト (仮)」、「『わたしの人生をアヲで彩り』プロジェクト (仮)』の計 5 つを挙げています。 阪南市デジタル田園都市構想総合戦略 (素案) の説明は以上です。
委員長	ただいま、総合戦略等についての説明がありました。 ご質問などございましたら、よろしくお願いいたします。
委員	今回の総合戦略は、市民が主体的に動き、行政がバックアップするというように、「市民との共創」が大きなテーマになっていると感じます。 重点施策も全体的に良いものになったと思います。一方で、例えば 2 つ目の重点施策『みんなの「自分らしさ」で創る遊びの場・憩いの場・集いの場プロジェクト (仮)』について、こどもも親も自分らしく過ごし育つことができる遊び場、憩いの場づくりをすることにより、人口を増加させること・人口減少を食い止めることを目標とされているのだと認識しましたが、施策と目標の間に、施策の達成度を評価できる具体的な指標が必要ではないでしょうか。指標がなければ、施策を実施したまま終わってしまうと感じます。 また、市と市民が共創して取り組むうえで、市民としてはどの段階から参画

	できるのでしょうか。企画段階から参画できるのか、それともある程度内容が固まってから協力者として参画することになるのでしょうか。企画段階や目標設定の段階から市民やキーパーソンを巻き込まなければ、市民が主体的に動けず、また、施策が市民のニーズに合わなくなる可能性があると思います。
事務局	施策を実施する際には KPI 等を設定し、評価をしたいと考えています。KPI の設定は、市民の皆様と話し合いながら決められたらと考えております。 市のみで企画をするのではなく、キーパーソンとの関わり方を検討し、市として、市民自身が「私の ONE ACTION」として主体的に仲間を集め、活動をできるような支援をしたいと考えています。
委員	今後、施策に関わっていきたいと考えていますが、施策を企画するにあたり、市民から関わりたい人を公募されるのでしょうか。施策の検討を始めるタイミングが分からなければ、市民として主体的に動くことができないと思います。
委員長	キーパーソンを中心にプラットフォームに参画いただき、そこを中心として検討が進むことになると思います。プラットフォームの具体的な運営イメージはあるのでしょうか。
事務局	市のホームページ等で情報発信していきたいと考えていますが、現状は発信が不十分であると感じています。 プラットフォームについては、市がキーパーソンをプラットフォームに集めて、それらのキーパーソンと連携することでさらに人を増やしていくことを想定しています。 どちらも今後、詳細に検討する必要があると考えています。
委員長	プラットフォームについて難しく考える必要はないと思います。例えば、大阪府茨木市の商工会議所は、2 か月 1 度、商工会議所の呼びかけで様々な方々が集まり、意見交換をしています。また、茨木市のおにクルにある市民活動センターも、キーパーソンが集まる運営会議を毎月開催しています。おにクルは「育てる場」がコンセプトであることから、年末には市長も含め、日頃からおにクルに関わっている方々が集まり、忘年会という形で今年 1 年を振り返る予定です。このように、意見交換ができる場さえあれば良いのではないのでしょうか。活動的な人が 1 人いれば、その人を起点に人が繋がっていくと思います。
事務局	市としてもそのように進めていきたいと思っています。例えば、尾崎駅周辺のエリアマネジメントにおいても、まずは市民や事業者にお声掛けをして、勉強会から始めています。勉強会のような場からエリアマネジメントに繋

	がるよう、市として支援したいと考えています。
委員長	市として取組を見える化し、アピールすることが重要です。また、口コミや声掛けでさらに情報を広めることが重要です。既に実施されている勉強会についても、情報発信することで、市民同士が声を掛け合い、積極的に取り組む風土が醸成されると良いと思います。
委員	尾崎駅周辺のエリアマネジメントに向けた勉強会のように、今後、地域やテーマごとに様々なプラットフォームが作られると思いますが、それらのプラットフォームを統括する運営委員会のような場が必要ではないでしょうか。各プラットフォームの運営を続けられるようにするためにも、各プラットフォームで発生した問題を総合的に考え、情報共有する組織が必要であると思います。
委員長	会議体を組織づくっていくと、参加者にとって重荷になってしまい、長続きしません。例えば、大阪府茨木市では月に1度、意見交換を行うプラットフォームがありますが、都合のつく人のみが集まり、都合の悪い人は自由に欠席できます。そのようなカジュアルな場づくりのきっかけを市が提供する、あるいは市民自身が作り、市民主体で活動できるようになることを期待しています。
委員	重点施策として、市民主体で活動できるように市が支援することには賛成です。一方で、活動的な市民だけではなく、一般市民もどう巻き込んでいくのかについても記載していくほうが良いのではないのでしょうか。
委員長	プラットフォームを作った後、どのような人が集まり、何が起こり、その結果、プラットフォーム外の市民・市全体にどのような影響を及ぼすのか、そういったストーリーを描くことについても、検討いただけたらと思います。
事務局	市としても、どのように持続可能なコミュニティをつくるのかは重要な課題であると捉えています。地域まちづくり協議会のような組織を発足し、各地域の活性化を図りたいと考えていますが、地域ごとに異なる特性があることに留意して、適切な支援を検討する必要があると考えています。
委員長	市は各組織の強化に注力しすぎない方が良いと思います。まずは、市民の心がときめかないと主体的な活動につながりません。 例えば、大阪府八尾市で以前作られた文化振興のビジョンには「ときめきから共感へ」というキャッチフレーズがあります。まずは、自分自身が心ときめいて動き出し、共感できる仲間の輪を広げていくことで、市民の文化活動が栄えることを願ったキャッチフレーズです。他にも、兵庫県宝塚市には、エイジフレンドリーシティということで『「お互いさま」があふれる 宝塚』というキャッチフレーズがあります。相互扶助のような難しい言葉を使わず、「お互いさま」の精神が広がるようなまちになろうというキャッチフレ

	ーズです。滋賀県彦根市には「百の愚痴より十の提案、十の提案より一の実行」というキャッチフレーズがあります。言葉の通り、愚痴ではなく前向きに提案し、提案で終わらず実行していこうというキャッチフレーズです。阪南市でも「私の ONE ACTION」というキャッチフレーズを打ち出し、市民が心ときめくような組織づくり、活動づくりをしていただければと期待しています。
委員	市民が心ときめくこと、組織外の人々を巻き込んでいくことには難しさもあると思います。具体的に人々を巻き込む方法、事例はあるのでしょうか。
委員長	まずはイベント等の楽しいものを開催し、参加者として関わってもらうことが大事だと思います。最初から強制的に役員にならないといけない状況下では、負担や責任が伴うため役員になりたくないという人もいます。 どのような活動を行っているのかを見える化して発信し、自ら担い手になる人が生まれるようにする。そして何かあった際には、担い手同士で本音を言い合える関係性が構築されており、自由に組織を出入りできる環境になっていることが必要であると考えます。
委員	市民主体の取組を進めることも重要ですが、住民アンケートの結果に表れている根本的な問題の解決にも取り組む必要があるのではないのでしょうか。住民アンケートでは、仕事と子育ての両立、阪南市内の雇用機会の少なさ、住環境、交通が課題であると感じますが、基本目標 2,3 に掲げられている取組や KPI は、それらの課題の解決からには直接的につながっていないのではないのでしょうか。市が主体的に市内の経済活動が活発になるように取り組むのも良いのではないのでしょうか。
事務局	空家、遊休農地の活用や、チャレンジショップ等については、市が中間支援者となり、どのように支援できるか検討したいと思っています。また、移動の支援は市民からのニーズも高いため、ライドシェア等、適切な支援方法を検討します。
委員長	市が主体的に動くことも必要ですが、空家の活用は不動産屋などの適切な事業者担っていただくことも重要です。市内や近隣の不動産屋も実際に空家を活用したマッチング事業を実施しているようです。空家情報を一元化するプラットフォームを作り、市と民間事業者で役割分担をすることも考えられます。誰がどのようにプラットフォームを動かすのか、今後検討いただきたいと思います。
委員	市民が主体となる取組について、市はどのように支援するのでしょうか。市の立ち位置をもう少し明確にすべきではないのでしょうか。
事務局	市は取組にチャレンジしたい人同士をマッチングする場づくりや、空家バ

	ンクと連携する仕組みづくりなどの支援をしていきます。市は市民が主体的に活動できるようにプラットフォームの一員として、取組のきっかけづくりに取り組みます。
委員長	茨木市では、商工会議所が主体となり運営しているプラットフォームに、市役所の職員の方々が積極的に参加し、情報提供を行っています。プラットフォームに様々な人が参加し、情報交換するためのフラットな関係性を構築できることを期待しています。
委員	資料2の31ページについて、早い時期から出産、子育てを考える機会の提供を行うと記載されていますが、取組としては小中学校における乳幼児・妊婦の方とのふれあい体験等を想定されているのでしょうか。
事務局	ふれあい体験等を想定していますが、対象年代は検討段階です。総合戦略に記載することで、施策として取り組んでいきたいと考えています。
委員	既に小学校において、出前授業としてふれあい体験を行う中で、妊婦や親の大変さや、こどもを持つ喜びを感じてもらっていますが、全校では実施できていません。今後ぜひ、全校で実施できるようにしていただきたいと思います。 また、40代も出産・子育て支援のターゲットとし、もう1人こどもが欲しいと思った際に出産できるように支援するべきだと考えます。例えば、保健センターでこどもの健診を受診する際に、支援情報を提供したり、今後の出産の希望を聞き取り、アドバイスを行うなどの取組も必要ではないでしょうか。保健センターは妊婦や子育て世代と接する機会も多いため、情報提供の場としてもっと活用すべきだと思います。 加えて、家事サポートをはじめとして出産後や子育てに関する支援も重要だと思います。乳児と母親が7日間、施設で食事サポートを受けたり相談ができたりする取組もありますが、期間が短いと感じています。今後検討していくべきではないでしょうか。
事務局	出産の希望を叶えるための取組として、高齢であることや、生活が忙しくもう1人子どもを持ちたいのに産めないなどの不安を解消するために、不妊治療や家事のサポートなどの支援を行うと記載しております。支援体制についても引き続き検討したいと思います。
委員長	総合計画と併せて施策を検討いただきたいと思います。 例えば、おにクルは複合施設であり、様々な部署が連携しています。おにクルにある遊び場は、民間事業者が事業を行うと利用料金が1000円以上掛かるところを300円に抑えています。その差額を税金で補填することについて

	て、遊び場に来るこどもの親に対して保健師が相談を受ける接点が作れるということを理由としています。また、自習にくる中高生とこども連れの親と交流させることで中高生の子どもに関する教育にもつなげるといったことも考えられます。
委員	子育て支援センターにおいて、小中高生と乳幼児のふれあい体験を行っています。しかし、行政の施設であるため各部屋の用途が分けられており、自由にふれあいの場づくりや講座を行うことができません。子育て支援センターが多世代の交流できる居場所となることで、虐待予防等にも繋がると考えるため、行政の施設の運営の在り方についても検討いただきたいと思っています。
委員長	施設のスタッフが管理者目線ではなく、利用者目線に立つことで市民、行政、民間事業者の協働・共創が生まれると思います。そのような観点で、施策展開を進めていただきたいと思っています。
委員	早い時期から出産・子育てを考えることや、産業を創出・発展させ、地域雇用とつなげることと関連して、学生に対して、産業や働き方について情報を広める施策が必要だと思っています。例えば、阪南市の小中学生に対し、阪南市の産業を体験してもらう等の取組が考えられますが、現時点で実施している取組や今後の計画はあるのでしょうか。
事務局	市と大学が連携して、学生が商品開発を行ったり、地域と関わるフィールドワークを実施しています。学生の起業についても、学生から相談を受け付け、ワークショップ等への参加もしていただけるようにしており、今後も継続していきたいと思っています。小中学生については、阪南市の特色である海洋教育を通し、漁業についても学んでいただけるように取り組んでいます。
委員	小学校では市の地図を作り、各地域の特産品を調べてまとめ、小学校に展示したり、作文を書いたりする取組があります。例えば、作成した地図を市役所のロビーに展示したり、各学校の児童をこども観光大使に任命することでシビックプライドを高めることができるのではないのでしょうか。
委員長	親が商売をしているこどもは、外に職業体験に行かなくとも、働く親の姿を近くで見て、手伝うことがあると思います。他にも、移住して起業する人が増えている徳島県神山町では、そのような方をゲスト講師として中学校に招き、子どもの目が輝くような取組を実施しています。 職業体験に限らず、こども達はきらきらとした大人の存在を肌で感じると考えるため、大人とこどもの交流を作ることができると良いと思います。 また、総合戦略の概要版について、はんなんリブートプラン（重点施策による取組の全体像）の説明が長いと感じます。「私の ONE ACTION が魅力的

	なまちを作る」のような短いもののみで良いのではないのでしょうか。概要版を読む人に読んでいただける工夫をしていただき、心躍るデザインにしていけたらと思います。
(2) 意見交換	
委員長	それでは、次に、議事案件「(3) 意見交換」として、委員から情報提供やご意見があれば、お願いいたします。 ⇒なし
(3) その他	
委員長	その他として、事務局からお知らせがあればよろしくお願いします。
事務局	今後のスケジュールとして、本委員会の意見を踏まえて、案を修正し、パブリックコメントを実施します。年度内に総合戦略を策定する予定です。 本年度の創生委員会は今回をもって終了いたしますが、今後も引き続き、皆様からご支援、ご協力を賜れますと幸いです。 本日はありがとうございました。

以上